



一日も早い戦火の終息を  
心から祈ります。

## 第9回 食と農の未来フォーラム

# 令和の百姓一揆2026 食といのちの自給圏を創り出すためには (仮題)

ゲスト：菅野芳秀 (かんのよしひで) さん



ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」  
主宰 中田哲也  
e-mail; foodmileage(アットマーク)jcom.home.ne.jp



(本資料は後日、共有します。)

# ご挨拶と自己紹介



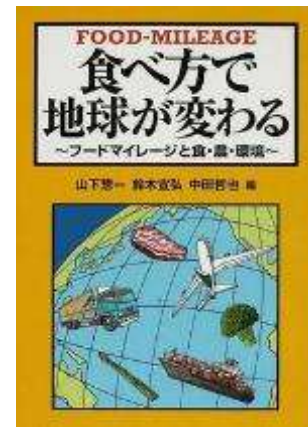
1960年 徳島市生まれ  
1982年3月 岡山大学農学部卒業、2012年 千葉大学大学院園芸学研究科修了  
博士(農学)  
1982年4月 農林水産省入省  
2001年4月～3年7月の間、農林水産政策研究所において篠原孝所長  
(現・衆院議員)の指導の下、フード・マイレージに関する研究に従事

その後、九州農政局(熊本市)、北陸農政局(金沢市)、統計部数理官等を経て2020年3月 定年退職。2025年3月、再任用終了

個人的なライフワークとしてフード・マイレージの普及等に取り組み  
ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰

(ブログ、メルマガなど) <http://food-mileage.jp>

著書 『フード・マイレージーあなたの食が地球を変える』  
(2018(新版)、日本評論社)  
『食べ方で地球が変わる フードマイレージと食・農・環境』  
(山下惣一氏、鈴木宣弘氏との共著、2007.7、創森社) 等



東京・東村山市在住。  
自宅近くに市民農園の一面(30平米)を借りて農作業の真似事。

# 「食と農の未来フォーラム」について



写真:野生キンラン（東京・東村山市）、堰浚いボランティア（福島・喜多方市）、PresentTree植樹イベント（山梨・笛吹市）

## 1 開催の趣旨と目的開催の趣旨

(1) 現在、食と農は様々な深刻な課題に直面。

例：食料自給率の低迷、担い手・農地などの急速な減少、農村の過疎化と「限界集落」化、栄養バランスの崩れと食生活の乱れ、膨大な食品ロス 等

(2) これらの課題の多くは、基本的に「食（食卓、消費者、都市）と農（産地、生産者、農村）の間の距離」が離れてしまっていることに起因。

多くの都市の消費者にとって、食べものは、お金さえ出せばいつでもいくらでも買える単なる「商品」に。

どこで、誰によって、どのように生産されて食卓まで運ばれてきているか想像できず。

食はいのちの源。食べものを大切に思う心、食の生産に携わっている方たちへの敬意、自然への畏敬の念を取り戻す必要。

(3) 本フォーラムは、都市の一般市民（消費者）の方々を主な対象として、食と農の現場の実情と課題を身近に感じ、自主的な行動変容につなげて頂くことを期待して、月1回程度、食や農の「現場」に精通しているゲストをお招きして、中田個人（ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」）の主催により開催。

食や農の現状に興味・関心をお持ちの方など、幅広い皆様の参加をお待ちしています。

## 2 開催実績と予定

【第1回】2025年6月30日（月）午後7時～9時、オンライン

開催趣旨等について中田から説明と意見交換（概要）<https://food-mileage.jp/2025/07/04/blog-587/>



【第2回】7月23日（水）午後7時～9時、オンライン

**大友 治さん**「米は田んぼだけで作られるのではない 稲作が生産するのは米だけではない」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/07/27/blog-592/>

【第3回】8月26日（火）午後7時～9時、オンライン

**鈴木純子さん**「原発被災地でオーガニックコットンを育て「続け」ること」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/08/30/blog-598/>



【第4回】9月20日（土）午後7時～9時、オンライン

**榊田みどりさん**「都市住民こそ他人事じゃない！ 私たちの食べものは大丈夫？」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/09/25/blog-602/>

【第5回】10月27日（月）午後7時～9時、オンライン **佐久間 建さん、藤崎美智子さん**

「ハンセン病問題を基礎から学び、紙芝居『わたしの命の物語』から生きやすい社会について考える」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/11/02/blog-608/>



【第6回】11月25日（火）午後7時～9時、於 パレスチナ料理店・Bisan（東京・十条）

**高橋美香さん** 「パレスチナの家族の今」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/11/28/blog-610/>

【第7回】2026年1月31日（月）午後7時～9時、オンライン

**富澤太郎さん** 「限界を迎える限界集落ー消えつつある自給自足の農と里山暮らし」

（概要）<https://food-mileage.jp/2026/02/06/blog-622/>



【第8回】2026年2月17日（月）午後7時～9時、オンライン

**釘島浩子さん** 「日本人ファースト」って？『武士の娘』から考える」

（概要）<https://food-mileage.jp/2026/02/24/blog-627/>

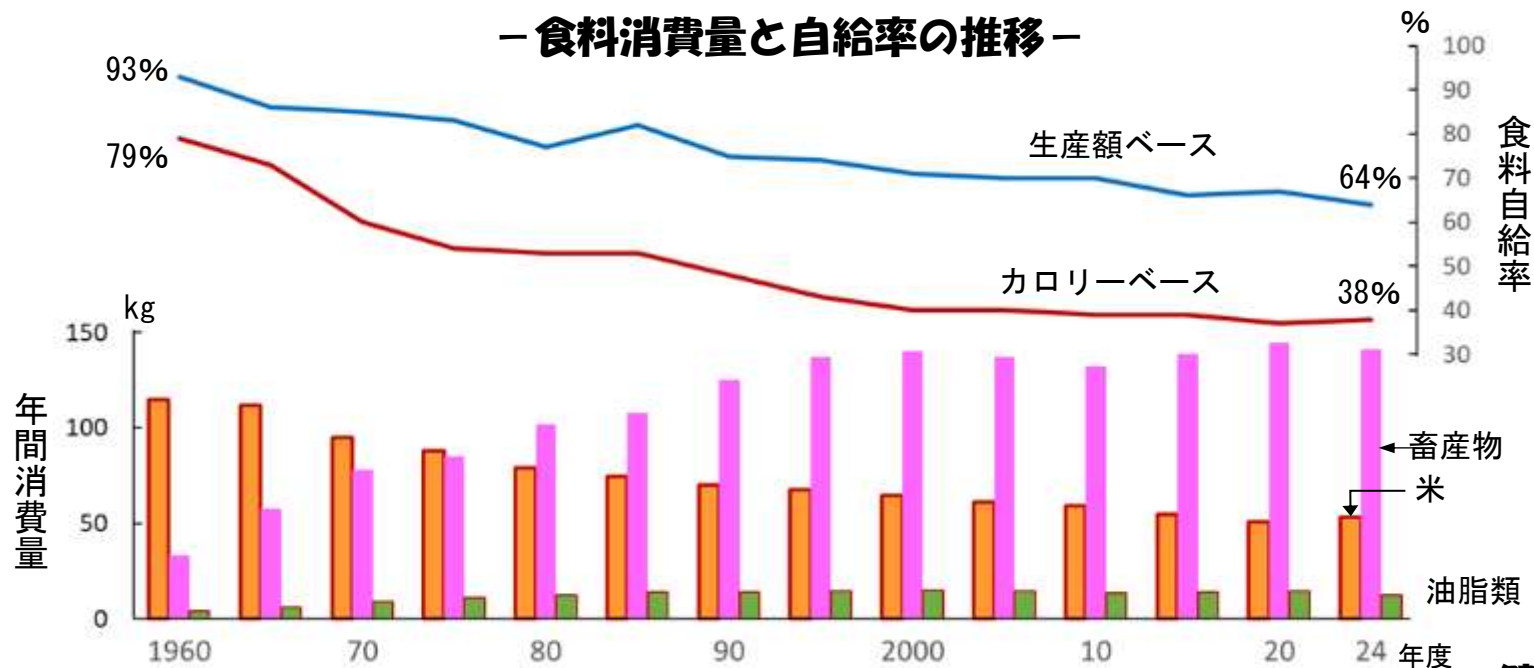
【第9回（本日）】**菅野芳秀さん**

# なぜ農業問題は都市住民(消費者)の問題なのか

2026年版、中田作成

## 1 食料自給率低下の原因は、食料消費(食の選択)の激変

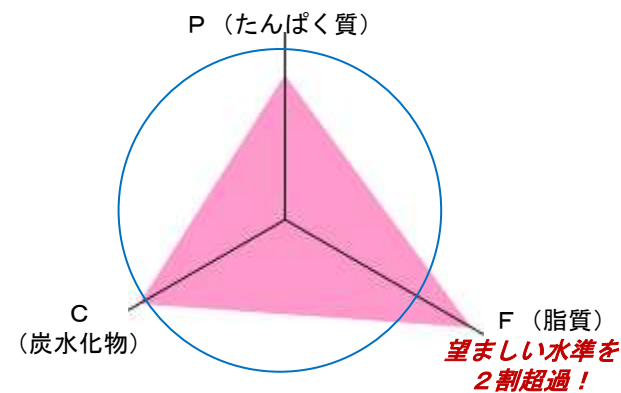
－食料消費量と自給率の推移－



1人1年当たり供給純食料	[1960年度]	→	[2024年度]
米	114.9 kg	→	46.5 (0.46倍)
畜産物	33.7 kg	→	141.2 (4.2倍)
油脂類	4.3 kg	→	12.8 (3.0倍)

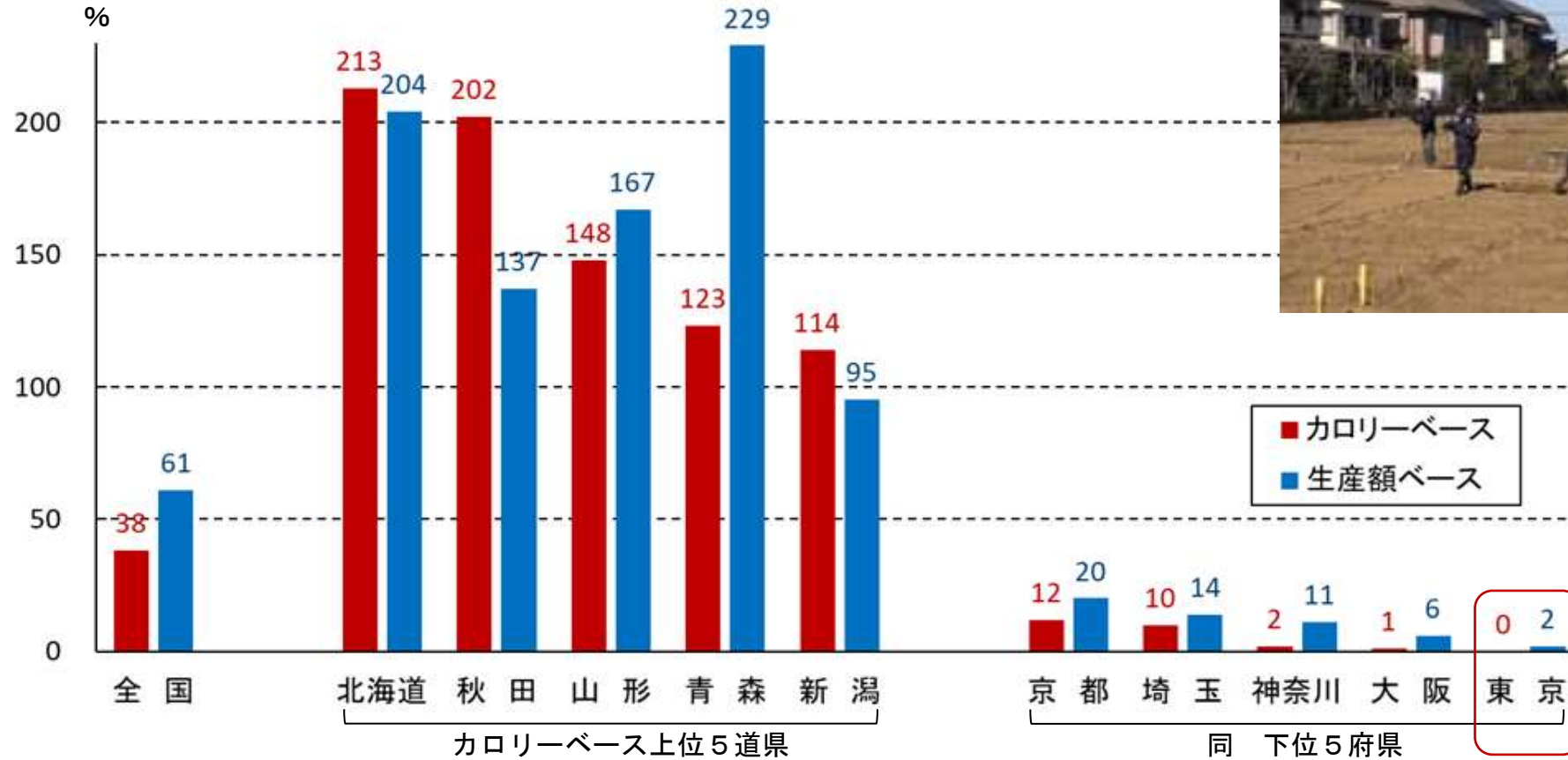
資料：農林水産省「食料需給表」、厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2025年版)」から作成。  
<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001396865.pdf>

－健康面でのリスクも－



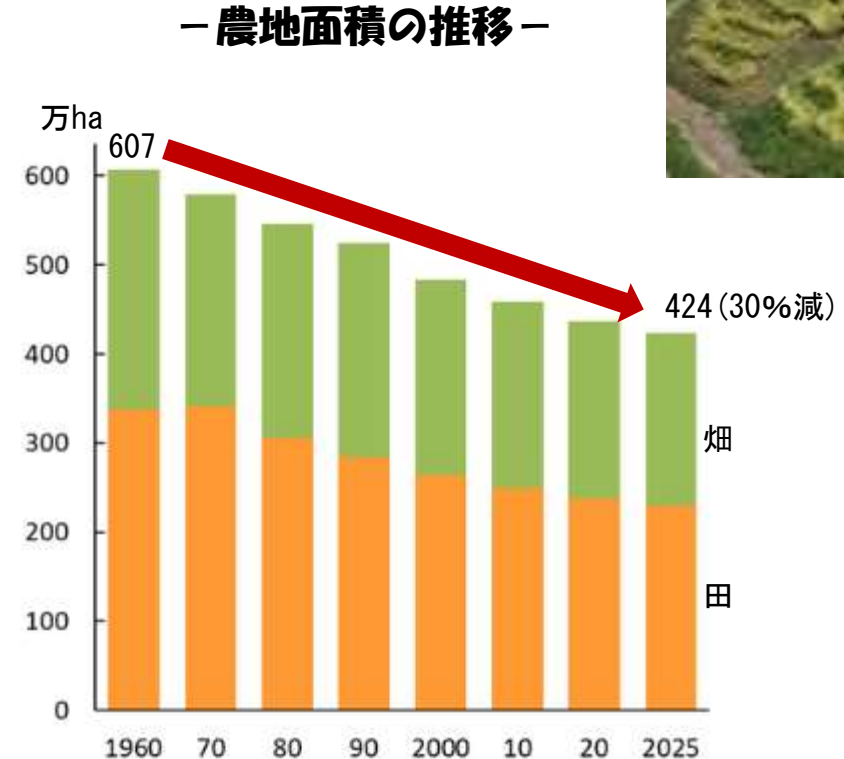
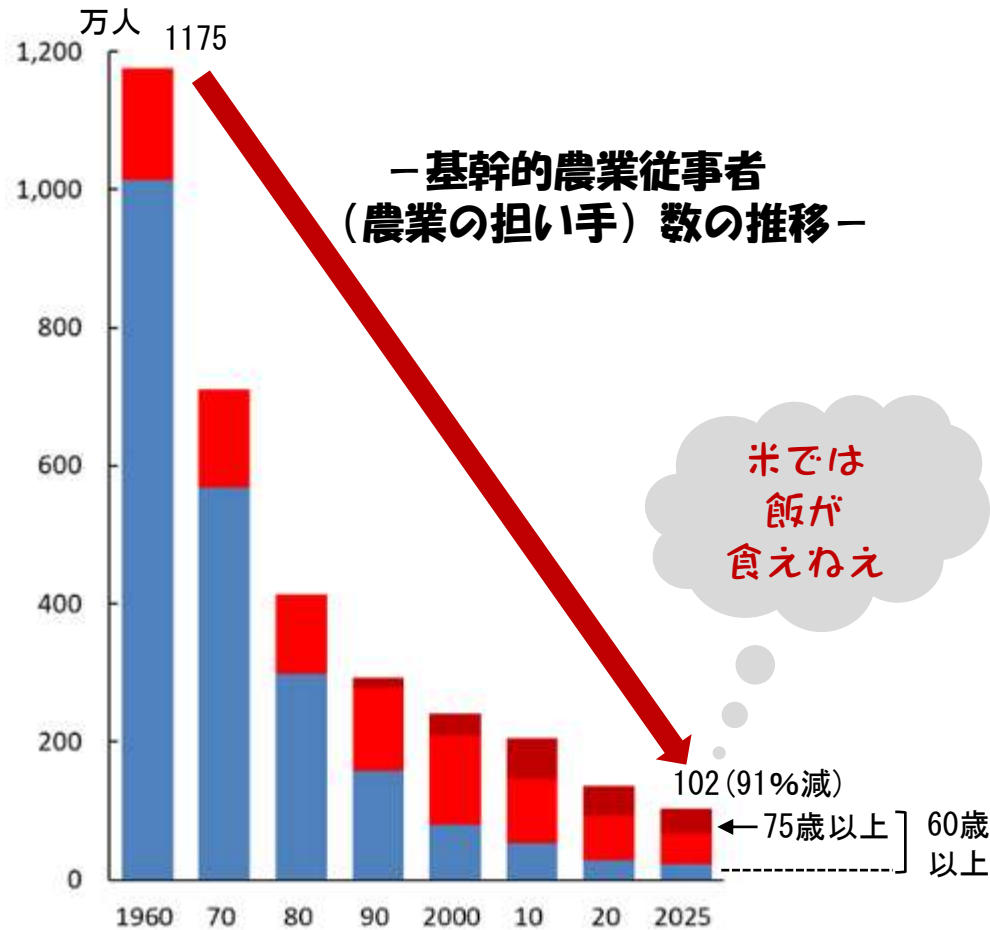
## 2 最初に飢えるのは都市住民？

— 都道府県別の食料自給率（2023年度 概算） —



資料：農林水産省「都道府県別食料自給率」から作成。  
[https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/zikyu\\_10.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/zikyu_10.html)

### 3 衰退する日本の農業



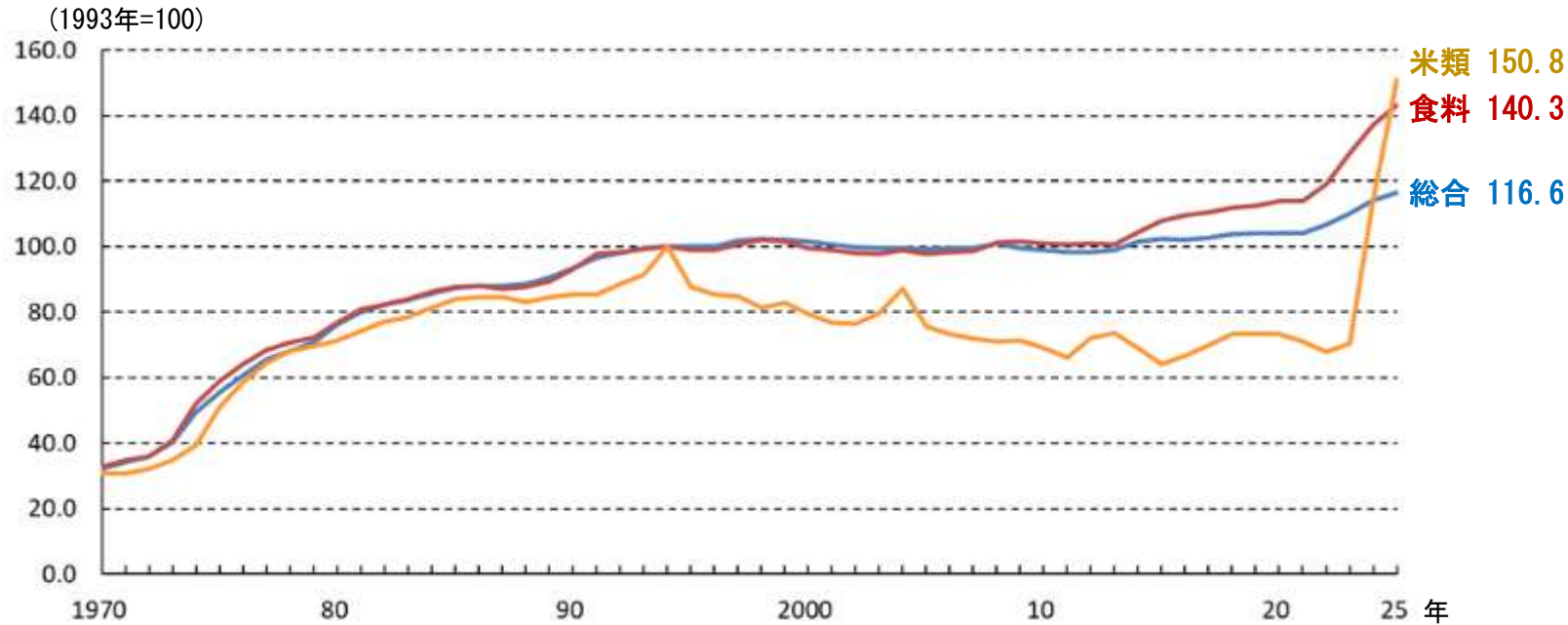
1人の農業の担い手が支えている消費者  
 [1960年] 約8人 → [2025年] 約121人 (15倍)

人口1人当たり農地面積  
 [1960年] 約197坪 → [2025年] 約104坪 (47%減)

資料：農林水産省「農林業センサス」「作物統計」から作成。  
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html>  
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/index.html>

## 4 米価高騰？ = これまで長期間、低迷していた

— 消費者物価指数の推移 —



資料：総務省「消費者物価指数(時系列データ)」から作成。 <https://www.stat.go.jp/data/cpi/1.html>  
注：1993年を100とした数値に換算(単純計算)した数値である。



## 5 食(消費者、都市)と農(生産者、農村)の間の距離の拡大

都市の消費者にとって、食べものは単なる「商品」に  
→食べものを大切に作る心、生産者や産地、自然環境に対する畏敬の念の喪失  
**食品ロス量は464万トン(2023年度。ちなみに米の収穫量は721万トン)**

**私たちにできること：農を自分ゴト、身近なものに**  
(例えばベランダで野菜を作ってみる、取り寄せてみる、産地・生産者を訪ねる)

2026.3/25 作成：中田哲也(私も一人の消費者です。)  
ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>



日本の食と農の現実 is 深刻。  
これらの「いのちの問題」に向き合い、  
みんなで農政の転換を実現しよう。  
今が正念場だ。

# 令和の 百姓一揆



2026.3.29  
14時30分  
集会開始  
青山公園南地区  
トラクター &  
軽トラパレード  
提灯行進



令和の百姓一揆

私たち令和の百姓一揆実行委員会は、安全でおいしい国産の農産物をつくるために日々土を耕し、家畜を養い、自然と向き合い、農業を営んできました。また、農業生産を通して地域の共同体を維持し農村の集落を守ってきました。環境を守り、生態系を維持することにも努めてきました。しかし残念ながらこのような農業を続けていくことが困難になってきました。持続的に安全な農産物をつくりたいと思いをよせる農業者（百姓）百姓一揆といっても、決して「トラクター行進を皮切りに、全取り組みが広がっています。令和の百姓一揆実行委員会は農よる酷暑や台風、大雨などの災害高齢化などにより農家人口は年耕作放棄地は増え続け、今やひ国産食料の生産基盤が大きく損出没し始め、今や市街地にまで一方でスーパーの棚から米が消えず、「国産のお米が食べたいのに買えない」という状況が深刻化しています。国民の生活はままなりません。未来に生まれてくる子どもたちも国産の食料を食べ続けてもらえるように、「日本の食」をスローガンに掲げ、すべての市民が安心して国産の食料を手にするためにすべての農民に訴求を求めます。

3月29日（日）14時30分～  
青山公園南地区・多目的広場  
（東京・港区六本木）集合

- ・集会
- ・トラクター&軽トラパレード
- ・人の行進（提灯行列）  
～表参道、代々木公園へ

消費者と生産者の連帯の輪を広げていきます

日時： 2026年3月29日（日）  
場所： 東京都港区六本木「青山公園南地区・多目的広場」  
アクセス： 地下鉄千代田線「乃木坂駅」5番出口から徒歩4分  
日比谷線「六本木駅」2番出口から徒歩12分  
銀座線・半蔵門線、大江戸線「青山一丁目駅」5番出口から徒歩14分

スケジュール（予定）  
14時30分 集会開催  
16時00分 トラクター&軽トラパレード出発  
17時00分 人行進（提灯行進）  
コース予定 青山→表参道→代々木公園 予定  
※人とトラクターは一緒に進行できません

令和の百姓一揆のネーム入り提灯を1,000個用意しました。集会の運営のために会場カンパをお願いいたします。1,000円以上のカンパに対して提灯をお渡しします。（提灯はなくなり次第終了）横断幕、のぼり旗、うちわはご用意しています！

農家が生活できる所得補償を！

連絡先  
hyakushoikki.japan@gmail.com  
03-5211-6880 事務局代表電話  
(山田正彦法律事務所)

# 本日のフォーラムの取り進め方等

## ○ ゲスト：菅野芳秀（かんの・よしひで）さん

1949年山形県長井市生まれ。百姓（稲作、自然卵養鶏等）。

「令和の百姓一揆」実行委員会代表、大正大学客員教授、置賜自給圏推進機構共同代表、アジア農民交流センター共同代表、「レインボープラン」推進協議会元会長。

著書に『生きるための農業 地域をつくる農業』（2024年11月、大正大学出版会）など多数。[https://www.tais.ac.jp/guide/research/publishing/chiikijin\\_list/002/](https://www.tais.ac.jp/guide/research/publishing/chiikijin_list/002/)

## ○ 会場：東北カフェ&ダイニング トレジオンポート

（東京・港区赤坂3、メトロ赤坂駅または赤坂見附駅から徒歩5分程度）

<https://tregion-bal.com/shop/tregion-port/>

（併行してオンライン（zoom）配信）

## ○ スケジュール

- |             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 18:30~18:40 | 主催者からフォーラムの趣旨等の説明       |
| 18:40~19:40 | 菅野さんからのお話               |
| 19:40~      | 懇談、意見交換                 |
| 19:40~19:50 | 東北カフェ&ダイニング トレジオンポートの説明 |
| 20:30~21:00 | （オンラインを含め）質疑応答、意見交換     |

## ○ レコーディングして、申し込んで下さっている方にはアーカイブ配信（30日限定、公開はせず）

